



友達になろう

BE A FRIEND

1994—95年度国際ロータリーのテーマ

- 国際ロータリー会長 ビル・ハントレー
- 第2560地区ガバナー 大島 精次
- 会長——高橋 一夫
- 副会長——石橋 育於
- 幹事——五十嵐晋三
- 副幹事——松谷 昊吉
- SAA——平原 信行
- 副SAA——清水 良一
- 例会日——毎週水曜日 12:30～
- 例会場——三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内 TEL 34-3311
- 事務局——三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内 TEL 35-3477
- FAX 32-7095

出席者会員数

会員 79名中 58名

先々週出席率

96.00% (前年同期 96.10%)

ゲスト

第2560地区財団委員長 小山楯夫殿

先週のメイクアツプ

- 11/3 前橋中央チャーターナイトへ 高橋一夫さん、石橋育於さん、藤田説量さん
- 11/4 吉田へ 野村竹三郎さん
- 11/7 三条南へ 藤田紘一さん、古沢富雄さん、榎本 勝さん
- 11/8 三条北へ 渋谷健一さん、齋藤弘文さん

会長挨拶

高橋(一)会長

皆さんこんにちわ。今日の卓話は新潟クラブより小山さんをお迎えしております。
 小山さんは先般行われましたGSEの責任者であります。また新潟クラブは歴史が古く、そのユニークなクラブ運営の一端でもお聞かせ頂ければと楽しみにしております。
 先般の地区大会、皆さん御苦労さまでした。私は二日間、RI会長代理の渡辺さんのお

普及するのでしょうか、私はよく解りませんが、環境によいものらしいが県央でも関連した商品が売られているとか。

細井さん 先週久しぶりにゴルフコンペで優勝しました。

清水さん おそまきながら長嶋、巨人、日本一、バンザイこれで少しは景気もよくなるでしょう。

卓 話

GSE委員長 小山楯夫殿

ただいまご紹介いただきました新潟クラブの小山です。私の職業分類は「旅館」です。ロータリー歴15年です。ロータリー財団のB部門、GSE担当です。

ロータリー財団月間ですので、今更と思われるでしょうが我慢してください。国際ロータリが出来したのは1905年。現在150カ国、25,000を超えるクラブ。そして110万人を超える会員がおります。国際ロータリー四大部門というものがありますが、その奉仕活動を遂行するためにロータリー財団がごさいます。1918年に始まりました。1930年にその基金が遣われ始めました。



ロータリー財団には三つのプログラムがごさいます。人道的なプログラム（保険、飢餓救済、人間尊重）、教育的なプログラム（国際親善奨学金、文化研修のための国際親善奨学金）、そして最後に文化的交換プログラムです。これが今回お世話頂いたGSEでごさいます。来春にはこちらからも四人の方がアメリカに研修にまいります。

GSEの委員長をお引き受けいたしておるのですが、これがなかなかお金がかかる事業でごさいます。そこで思い切った経費節減をいたしました。打ち合わせ会議の合理化、交通費の節約、飲み食いの費用を減らす。これによってかなりの節約が出来ます。その分回数、人数を増やせると思っています。

ロータリー財団は最近新しいことをやっております。シェアシステムといいます。分けるということです。財団に集まったお金を本部に送りますと地区に60%還元されます。その部分に限っては地区で決められるわけです。40%は国際的立場で、60%は地区の立場でということです。

新潟クラブでは、なかなか財団基金が集まらないクラブだったのですが、私がクラブの財団委員長を仰せつかりまして、会員の中には賛否がございましたけれども、「ニコニコボックス」と同じような感覚で1,000円からコメントを頂いて、集めました。工夫次第だと思います。財団委員長の努力でしょうか。

新潟クラブは堅苦しい雰囲気なものですから、何とかしようと考えまして、12時から自由に食事が出来るようにしております。好評です。入り口にミニバーをおきまして、ポケットマネーでアルコールも飲めるようにしてあります。酔っ払ってしまう方はロータリアンにはおられません。御安心ください。親睦委員長の時にもこのシステムを採用いたしまして、クラブ持ちの酒やビールは乾杯の時のみで、後はミニバーへ。

勇気を以てやると、皆さんも賛成して下さいますし、新しいことが出来るようです。是非新潟クラブへもお出かけください。時間がまいりました。ありがとうございました。

シリーズ思い出の会長・幹事時代 そのI

この度、クラブ会報委員会では、元会長、幹事の方々の貴重な体験談を結集し、新人のクラブに対する理解を得ると共に一日も早く慣れ親しんでいただくことを期待いたしまして、このような企画をいたしました。

ここに第一弾をおとどけいたします。紙面をかりまして、御多忙中快く御協力いただきました諸先輩に深く感謝申し上げます。

今後、何回かに分けて、いただいた原稿を掲載させていただきます。御期待ください。

クラブ会報委員会

停年なきロータリー

1962~63年度会長 鈴木宗資

古いロータリークラブには20才代から90才代迄各年令層の会員が居る。世の中には色々な団体があるがロータリーほど幅広い年齢層の会員を包含している集合体は滅多にない。(各会員の職業も雑多であるし、出席等の規約もかなりやかましいものもあるが、他の団体にはない良い処があるのであろうか、親睦を深めながら進展している。他市では出、入り共激しいクラブもあると聞いているが、当市の三クラブは順調に発展して居り、気負う程のことはないが一般市民からは紳士のクラブとして受けとめられている。

一年ほど前のロータリーの友でこんな記事があった。奉仕活動ができなくなった様な老会員は自らの意志で退会し、後進に道を譲るべきであると言う主張である。

奉仕にも様々な方法がある。労力を提供する。ローターアクト会員と一緒に色々な運動を展開する。これ等も立派な奉仕であるが、労力提供を伴わない奉仕も沢山ある。

力のある人は力を。金銭のある人は金銭を。智慧のある人はその智慧を出せば良いと言う考え方もある。

之等を全部身につけている人は殆ど居らないであろうが、少ないながらも此の内の一つ位は持ち合わせているロータリアンは多いことであろう。

ロータリーの四大奉仕部門の内最も分かり易いのが社会奉仕である。単独にての社会奉仕はあまりにも少額でまとまったことは遂行できない。

ロータリーではニコニコ箱を通して千円、二千元と言う金を集めてある程度纏まった金銭にして色々な社会奉仕をしている。こんな方法では1クラブ年間百万円か、その倍くらいにしなければならない。社会奉仕をその目的の冒頭に掲げるロータリーとしては些か少な過ぎる様に思えてならない。

私がロータリアンになった最初の頃或るガバナーから、こんな話を聞いた。

私共ロータリアンがニコニコボックスに喜捨し、それをクラブが糾合して社会奉仕を行う事はそれ自体立派な奉仕活動であるが、この事を別見すれば、将来大きな社会奉仕をするための稽古をやっているのだとも考えられる。

ロータリアンの中には大きな企業や団体のオーナーが沢山居られる。これ等の人々が一大発起すればロータリーで会得した社会奉仕の精神と大きい財政負担力を駆使して大きな社会奉仕をする事が出来る。

クラブそのものの社会奉仕もさる事ながら会員各自が提供する多額の喜捨に依るスケールの大きい社会奉仕、これこそがロータリーが願望する社会奉仕の姿である。

当クラブに所属して居られる捧会員は先般新潟市郊外の黒崎の地に、芸術育成財団、雪梁舎を設立され、その本拠となる大きな建物も完成し一般に公開された。総額いくらの費用が掛かったのかは聞いて居らないが、恐らく三条ロータリークラブが創立以来現在迄の社会奉仕の総額に匹敵、或いは凌駕する金額になるのではないだろうか。年々物価が上昇するので単純に比較する事は出来ないが、兎に角見事な社会奉仕の具現である。

捧さんは信仰心の厚い信心の人とお見受けして居ります。私共は社会の恩恵により生かされている。余力が生じた時は速やかに社会に還元しなければならないと言う固い信念をお持ちの様に思えてならない。

ロータリーの奉仕の教条が捧さんの信念を更に竿頭一步を進めて、掛かる快挙が出来たものと考えられる。

東京帝国ホテルのバーにて東京ロータリークラブ所属の老会員が正午前からカウンターに腰かけて食前酒の香りを楽しんでいる姿が散見される。元大会社のオーナーだった人が大部分である。彼等にはまだ社会奉仕に対する大きな余力が残っているかも知れない。

今までの功績に対して思いやりを馳せ、食前酒を味わいながらロータリーを楽しんで貰う心遣いであっても良いのではないだろうか。誰でもやがては老境を迎えるのだから。

想いつくまま ロータリーと私

1981~82年度会長 渋谷 健一

昭和4年晩秋に父親を亡くして、学校を中退し嫌々ながら家業を継ぐ運命となりました。当時20名位の従業員の方と苦しい戦時中、男子は兵役に若い女子は徴用にといった時代に、何もわからないままに印刷業に染まり、やがてわずかな期間ですが私も徴兵され3カ月で終戦を迎えました。

そして戦後、仙花紙を相手に印刷が出来るようになり、やがて上質紙も潤沢に出廻るようになった頃、当三条市にも会議所のメンバーを中心にRCの設立をする話が持ち上がり、難産のうえ誕生をされチャターに際しての案内状、プログラム等の印刷物等を受注し、その頃としては贅沢なものを作ったものでした。そして印刷界もチラシ、包装紙等の需要が活発となり、現今のような企画、価格競争もたいしたことがなく、古い暖簾にあぐらをかいて営業のできた時代で今思い起こせば誠に良き時代でありました。

そんな時に、初代会長になられた金子さんが再三にわたってクラブへの入会勧誘に見えられ、入会の条件とか理由など考えないでともかく入会してごらん下さいとお願いしましたが、何分にも若輩であり、人前で話すこととか、目上の人のお相手をするといったことが大変に苦手なので、再度お断り申し上げたのですが、とうとう根負けして昭和33年10月に藤田P. Gと一緒に入会させて頂く羽目になってしまいました。

以来毎週水曜日の例会に出席する様に勧めて参りましたが、何分にも能の無い者は何如ともしがたく、何となく昼食会員といった形でした。そのうち新潟に工場を持つ様になり新潟へ日参することになり、ホームクラブは欠席がちとなり月の半分以上は新潟でメイクアップすると言った具合で、クラブには大変ご迷惑をお掛けすることになってしまいました。

その後はロータリーも益々盛んに拡大政策が取られ毎年県内近県を問わずどこかでチャターがあり、日本経済の発展と同時にロータリーも、また当社もそれなりに伸びて来ました。

三条クラブは設立の時は24名のチャターメンバーで発足されたのですが、その頃の当社の社員数は48名で、ロータリーの会員数と比べ1:2の形でした。まさかこの比が今日まで持続するとは当時も今も思ってもいなかったことです。38豪雪に見舞われ新潟地震と天災の続く中を切り抜け三条R. C. の会員数が40名を超える発展に伴ない、当社の社員数も80名の規模になっておりました。順風満帆といった時代も長続きせず業界の技術進歩がはげしく、第一次、第二次のオイルショックにも倒産退歩もなくどうやら切り抜けて参りました。

そんな折三条R. C. が昭和56年に25周年を迎え幹事経験も無い私に会長職が廻って来

たのですが、幸いにも日々幹事さんを始め会員皆様の強力な助けを頂き、亦記念行事として南クラブさんと共同で中央公民館前に市民憲章碑の建立をすることが出来ました。亦クラブの会員数も60名となり、全く偶然にも当社の社員数も120名となっており、現在会員数80名に比例して当社社員数160名となっておりますが、日進月歩の技術革新の変化の中で経済成長について行くことが精一杯です。

その間にロータリーで学んだことといっても書く文字を見出すことが出来ない程私自身不勉強ですが、断片的に見ると「ロータリーは出席することによって成立する」を一つの令にして出席に励み、メイクアップに勤めてきました。そして親しい広い範囲の友ができ、またロータリーを通じ各奉仕の出来たことは個人では到底出来ない有難さでした。

最後に別掲写真は25年前の73年7月に金盛館へ一泊旅行に行った時の写真です。近年は一泊の親睦旅行も少なくなりましたが往時は「夜の会長・野水文治さん」のもと楽しい宴席が多々もたれました。然しその写真の23名の内3分の1の方々がお亡くなりになられております。ご冥福をお祈り申し上げますと共に、若手会員の皆様のご活躍、ご健勝をご祈念申し上げます。



三条RC 11月16日例会 卓話 山本福七会員

11月23日例会 休会 (祭日)

11月30日例会 卓話 滝沢富雄会員

三条南RC 11月21日例会 卓話 吉田行雄会員

11月28日例会 卓話 佐々木常行会員

12月5日例会 総会

三条北RC 11月22日例会 卓話 石月雅司会員

11月29日例会 卓話 丸山誠一会員

12月6日例会 総会
